

平成 21 年 4 月 23 日
(社) 日本技術者教育認定機構

2008 年度認定審査サマリーレポート

2008 年度学士課程プログラムの審査の結果、新規に 25 教育機関の 44 プログラムが認定されました。2001 年度に認定を開始してからの新規認定プログラムの総数は、158 教育機関で 409 プログラムになりました。この内 78 校 (49%) の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムからの修了生の累計は約 9.5 万人に達しています。認定プログラム数の内訳は、国公立大学 55%、私立大学 28%、高専 (専攻科) 17%、大学校 1 校となっています。認定プログラム数の多い分野は、機械 (17%)、土木 (15%)、工学 [融合複合、新領域] (13%)、化学 (12%)、電気・電子・情報通信 (10%)、情報 (8%)、建築 (7%)、農業工学 (5%)、農学一般 (3%) などとなっています。

また、認定開始から 8 年目を迎え、認定の有効期間を継続するための認定継続審査が約 40%を占めています。

JABEE の認定・審査は、16 技術分野の分野別審査委員会と、正会員 81 専門学協会の協力を得て実施されています。2008 年度の審査は、459 名の審査員によって行われました。また、156 名の審査員候補者が、オブザーバとして審査に参加しました。審査員・オブザーバのうち産業界の経験者は 191 名でした。的確な審査を実施するため、審査員に対して事前研修会を 3 度開催し、344 名が参加しました。

審査チームの審査報告は各分野の分野別審査委員会で調整され、「分野別審査報告書」として JABEE の認定・審査調整委員会に提出されました。認定・審査調整委員会は、計 3 日間にわたり全体の審議、調整を行い、「最終審査報告書」をまとめ、認定委員会に提出しました。認定委員会は、この最終審査報告書に基づき認定の可否と認定期間を決定しました。

2008 年度の審査においても、基準 1 で学習・教育目標を設定し、基準 3 の教育手段によって教育が行われ、基準 5 で達成度 (学習成果) を評価するという流れと関連性を踏まえたプログラム設計がなされておらず、カリキュラム設計や達成度評価が十分でなく、改善の必要性が指摘されたプログラムが多数ありました。学習・教育目標に掲げる能力の育成を卒業研究に依存し過ぎたり、それらの評価が不十分な事例もありました。達成度評価については、さらなる改善が必要であるとの指摘がありました。

2008年度の審査では、多くのプログラムの認定継続審査が実施されました。認定継続審査を受けたプログラムの多くは、継続的改善が認められ約50%は6年の認定期間となりましたが、一部に改善が進んでいない、あるいは改善の程度が弱いプログラムがありました。

人為的要素が大きい教育システムの質を維持するには継続的努力が必要です。また、社会の要望も時間と共に変化します。認定継続審査で前回審査より悪い判定がなされた場合、いろいろな理由がありますが、特に、基準1の学習・教育目標の設定で、前回より悪い判定がなされた例が少なくありませんでした。これは、主に、学習・教育目標の具体性への要求が5年前に比べかなり上がっているためです。各教育機関においては、社会の要望や国際的水準の変化にも配慮して、システムを確実に維持、改善することが求められます。

また、途中でプログラムの改変や合併等があった場合に、基準への適合性に懸念あるいは弱点が指摘された事例も見られました。認定継続審査にあたっては、基準6の教育改善などシステム（仕組み）の存在と共にそれが機能し実効があがっているかどうか問われます。

技術者教育の重要な要素であるエンジニアリング・デザイン教育に関しては、2007年度に引き続き、ある程度教育方法の改善が認められました。しかし、必ずしも十分ではないため、JABEEとして『JABEEにおけるエンジニアリング・デザイン教育への対応 基本方針』を公表し、またシンポジウムを開催しました。

学習・教育目標（アウトカムズ）のアセスメント・評価方法についても改善の必要性があります。国際的には多くの事例が紹介されていますので、それらを参考にして各プログラムが、主体的に取り組むことが望まれます。

認定審査体制については、審査員研修等により審査員の質を確保するとともに、同日複数プログラムの審査の導入など、審査の合理化と質の向上に努めてまいります。

2008年度の大学院修士課程プログラムの審査では、建築分野の建築設計・計画系で学部と大学院修士課程の同時審査を実施するとともに、JABEEとして、UNESCO/UIA（国際建築家連合）が進めている建築設計・計画教育の国際相互認証制度の審査を受審しました。その結果、建築設計・計画系アウトカムズに関する審査方法の改善などの指摘がありましたが、5年間の認証が得られ、JABEE認定の国際通用性が担保されました。

大学院修士課程の教育には、専攻等の教育内容の多様性や個性を尊重するとともに、産業界の要望や国際的な視点を踏まえて、育成する人材像を明確にし、学士課程より高度な学習・教育目標を設定していることがその前提として求められます。2009年度以降もこの考え方に沿って修士課程プログラムの審査を実施します。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科、専攻やコースなどの総称です。